

AMBITIOUS #083
三重県警察本部
警察官(自動車警ら隊)

常に全力!!



紹介企業情報/ 三重県警察本部

- 住所 津市栄町1-100
- URL <http://www.police.pref.mie.jp/>
- 勤務時間 交代制勤務(部署による)
- 休日 月10日程度

アンビ
ジャスト

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→警察官採用試験に合格→警察学校に入校→交番勤務を経験→自動車警ら隊に配属

警察官

——学生時代

「高校時代は、野球部に入っていて、練習と試合の毎日でした。部活を通して成長できたのは、体力や精神面が大きいです。担任の先生から、『おまえは警察官向きだよ』と言われていたのですが、そのときは全く意識していませんでした。卒業後、愛知学院大学に進学しました」

大学時代について教えてください。

「警察官をめざしたのは2年のときです。友達の家へ泊まりに行き、寝ていたら、不審者が部屋に入ってきたんです！ 生まれて初めて110番通報をしました。すぐに警察官が駆けつけ対応してくれ、その姿に『カッコいいなあ』と憧れ、警察官を志望しました」

——仕事について

「採用後、大卒者は半年間、高卒者は10か月間にわたって警察学校に入校し、法学や実務などについて勉強するほか、柔道や剣道などの術科訓練を行います。卒業後は交番で勤務し、管内のパトロール、住民の皆さんへの防犯指導、巡回連絡などを行います。三重の治安を守ります」

交番勤務について教えてください。

「交番に配置され最初に任されたのは、巡回連絡です。最初は何を話せばよいかわからないながら、住民の皆さんと良好な関係を築くことができました。そのほかは、道案内や落とし物の対応などが多かったです」

現在の仕事内容を教えてください。

「本部地域課にある自動車警ら隊員



として、パトカーに乗って三重県内をパトロールしています。不審者への職務質問を積極的に行い、犯罪者や交通違反者を検挙しています。パトロール中に県民の皆さんからの通報等により事件事故を認知したときは、現場にいち早く駆けつけて最善の対応をします」

仕事で心がけていることは？

「視野を広くもつこと。パトロールは2、3人で行うのですが、任務分担をして対向車両だけを見るのではなく、歩行者や自転車に乗っている不審者も見逃さないよう、注意深くまわりを見るように心掛けています。また、警察の仕事は同僚との絆が大事。学校生活や日常の仕事などを通して、同期生や同僚との協調性を学ぶことができました。おかげで、私は常に『自分は警察官だ』と自覚と責任をもった行動ができるようになったと感じています」

——やりがい

「生まれも育ちも三重県ですので、三重の人たちの安心安全を守る仕事に就いていることを誇らしく思います。『警察官になってよかった』と思うのは、県民の皆さんに感謝さ

れたとき。私たち警察官は、県民の皆さんと触れあう機会が多いので、やりがいを感じる瞬間は多いです」

なるためには

「警察官の採用試験に合格する必要がある。警察官には体力が必要。少しでもいいので毎日運動しておく、警察学校での訓練も少しは楽だと思えます。また、学生時代は、同級生以外の様々な人と関わる機会を積極的に増やしてほしいです。私も大学時代のアルバイトで様々な人と出会い、視野を広げることができました」

ありがとうございました。

原田 光太 さん

平成4年生まれ 愛知学院大学総合政策学部卒業

出身高校 海星高校

- 18歳 野球部に所属し、体力面や精神面が大きく成長。卒業後、愛知学院大学に進学。
- 22歳 110番通報をしたことがきっかけで警察官に憧れる。
- 25歳 市民が安心して暮らせる街になるよう、パトロールを行う日々。



AMBITIOUS #084
YOKKAICHI HARBOR 尾上別荘
 ウェディングプランナー



アンビ
 ジャス的

笑顔を大切に♡

勤務先情報/

YOKKAICHI HARBOR 尾上別荘(エルフラットグループ)

- 住所 四日市市尾上町1-28
- URL <http://www.e-wedding.jp/group/>
- 営業時間 10:00~19:00
- 定休日 火曜日

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→結婚式を手がける会社に入社→ウェディングプランナーとして勤務

—学生時代

「学校の帰り道におしゃべりをして帰るといふ、よくどこにでも見かけのような女子高生(笑)。テスト期間はみんなが集まって勉強をして成績を競ったり、先生とも仲が良かったですし、通学に距離があったので部活には入っていませんでしたが、高校生活を満喫していました」

—大学時代について教えてください。

「当時は図書館の仕事に就きたかったので、司書の勉強をするために進学先を皇學館大学に決めました。無事に司書資格をとることができたのですが、大学時代に始めた結婚式場でのアルバイト経験がプライベート業界へ進むきっかけに。キャプテンや先導係を任せられるようになり、ウェディングプランナーという仕事にも惹かれていきました」

—仕事について

「数ある結婚式場のなかから尾上別荘を選んだのは、会社説明会の紹介映像を見て、自分の理想と会社の理念が合致していると感じたからです。弊社の結婚式は、アルバイトから社員まで全員でひとつの結婚式を作りあげていきます。1日を通して、新郎新婦を見守ることができることが私にとって重要でした」

—仕事を始めて、最初に教わったことは何ですか？

「立ち振舞いですね。あいさつやお客様と目を合わせて会話をすること、どのタイミングで説明をすればじめると聞いてもらいやすいかなどを、具体的に教えてもらいました。」

ウェディングプランナー



一通りプライダルの基礎を学んだから、電話対応をしたり、レストランのテーブルを任せられたり、料理を出すタイミングの指示まで、ステップアップしていきます」

—仕事内容を簡単に教えてください。

「平日は事務作業、発注業務、館内清掃が中心。それから、尾上別荘はレストランとしても通常営業をしているので、レストランスタッフとしても働いています。土日は、担当の結婚式があるときは施行に入り、それ以外は、式に向けた打ち合わせが中心ですね」

—結婚式の打ち合わせの流れを教えてください。

「お客様と成約後、式の4ヶ月前から打ち合わせを始めます。3ヶ月前にはアルバムや映像といったアイテムを決めて、どのような式にしたいのか要望を聞きながら進行の骨組みを作ります。2ヶ月前になると具体的な内容、料理やケーキ、会場のお花なども決まっています。1ヶ月前には、ほぼ内容は確定。2週間前に司会者と進行を確認していただいで当日を迎えます」

—やりがい

「お客様の大切な一日を任せてもらえること。そして、二人のスタートラインを用意し、夫婦として生活していく第一歩となる日に関われることは大きなやりがいです」

—なるためには

「人と関わることや、話をするのが好きな人に向いている仕事です。プライダルの専門学校もあります。専門知識よりも、相手としっかりと関わろうとする心構えをもつことが大切だと思います」

お忙しいところ、ありがとうございます。

もり ひと み
森 仁美さん

平成3生まれ 皇學館大学文学部卒業

◆ 出身高校 四日市四郷高校

21歳 結婚式場でのアルバイトで、キャプテンや先導係を任せられる。

23歳 司書の勉強をしたときの整理の知識がいき、スムーズな事務仕事につながる。

26歳 笑顔を決めて、どのような式にしたいのか要望を聞きながら進行の骨組みを作ります。2ヶ月前になると具体的な内容、料理やケーキ、会場のお花なども決まっています。1ヶ月前には、ほぼ内容は確定。2週間前に司会者と進行を確認していただいで当日を迎えます」



AMBITIOUS #085
株式会社中広
アドプランナー(情報誌)

為せば成る
為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬ作り

勤務先情報/ 株式会社中広

- 住所 桑名市殿町10番地
- URL www.chuco.co.jp
- 勤務時間 9:00~18:00
- 休日 土曜日、日曜日、祝日

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→生活情報誌を発行する会社に入社→広告営業職に就く



アンビ
ジャス的

アドプランナー

——学生時代

「高校生のときは、友達と毎日のように遊んでいました。大学生のときはレジャー観光同好会というサークルの部長をやっていて、一言でいうなら楽しい学生生活でした(笑)」
大学時代について教えてください。
 「名古屋経済大学に進学したのは、Windows95が登場したころ。一般家庭にまだパソコンが普及していない時代だったので、大学でパソコンに触れることができて良かったと思います。しかし就職難の時代で、コンピュータ関係の仕事に就くにはより専門的な知識が必要となるため、その道は断念。もう少し視野を広げ、卒業後は、情報誌を発行する仕事に就きました」

——仕事について

「最初に就職した会社では、求人情報誌を担当しました。コンビニから飲食店、大企業から個人事業まで、いろんなところへ営業に行きました。対応してくれるのは、人事担当者や社長など、父親くらいの年齢の方ばかり。大学を卒業したばかりの若造でも対等に話せるように知識をつけようと、労働基準法などの本を読んで勉強しました。求人広告を作るにしても、年間休日や労働時間が適切かを判断するうえで法律の知識が必要になってきますからね」
現在の仕事内容を教えてください。
 「現在は地域みっちり生活情報誌『ぼろんくらぶ』などを発行する中広で働いています。仕事としては、まず営業から始まります。提



案に納得していただけたら、誌面に掲載する写真撮影や記事制作をおこないます。その後、印刷して仕上がった冊子を納品するという流れです。決められたフォーマットに沿って制作するページもあれば、お店や会社独自のデザインで掲載するページもあります。お店や会社によってアピールしたい情報が異なるので個別の対応が必要ですね」
仕事をするうえで心がけていることを教えてください。
 「意識していることは、お客様のいいところを見つけたことです。僕らの仕事は、広告を出してもらい、お客様の集客を上げること。お店側の『こういうことを打ちだしたい』という思いと、読者が求めているものとを合わせて考え、提案することが求められます」

——やりがい

「その結果、大きな反響をよべたときはうれしいですね。お客様自身が自分たちの武器を見失っていることもあるので、飲食店なら、実際にそのお店の料理を食べに行くことでもあります。そこで、改めてお店の

良さに気づくことも多いです。そうして得た情報と読者とのマッチポイントを探りだし、広告に反映させて繁盛につながることは大きなやりがいです」

——なるためには

「特に資格は必要ありませんが、学生のみならずには、本を読んではいいです。文章力がなければ、いい記事は書けません。そして、営業にはコミュニケーション力も大切です。僕は、意識して人と話す機会を増やしていましたよ」
お忙しいところ、ありがとうございます。

た なか しん すけ
田中 真介 さん

昭和51年生まれ 名古屋経済大学経済学部卒業

出身高校 四日市西高校

- 22歳 就活を通してコミュニケーション力を高めていくことを意識しはじめる。
- 32歳 先輩に教わるのではなく、自分で考え行動するという姿勢で仕事に向きあう。
- 40歳 自分の仕事を通して地域のいいところに光を当て、活性化をうながし、地域貢献をめざす。



AMBITIOUS #086
株式会社竹屋
店舗マネージャー(ファストフード)

日々成長!
人との出会いは大切に。

勤務先情報/ 株式会社竹屋

- 住所 四日市市桜町963-1
- URL <http://www.takeya-ltd.co.jp/>
- 営業時間 10:00~21:30 (店舗による)
- 定休日 無休

アンビ
ジャス的

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→ファストフードレストランを展開する企業に入社→店舗サービス事業部に配属



店舗マネージャー

学生時代

「小学校3年から続けてきた陸上をケガで辞めたのが高校1年のとき。土日も含めてスポーツ漬けの毎日を過ごしてきたので、生活スタイルもガラッと変わりました。スポーツがなくなった自分に何が残るんだろうと不安になりましたが、学業に集中できたことと写真部に入ったことで、結果、新しいことに挑戦する楽しさを学ぶことができました。」

大学時代について教えてください。

「皇學館大学に進学し、書道部に入りました。初心者ですが私だけでしたし、展覧会に何度も出品しないといけないことを知り、何度も心が折れました(笑)。でも部のみんなや先生に励まされ、続けてみると、2年目から卒業するまで毎年入賞できるようになったんです。そこまで上達できたのは、先生や先輩から「技は(見て盗め)と言われつつつけたからだと思います」

仕事について

「食べることが好きだったので、就職は飲食関係を考えていました。地元で働きたいと思っていてたころ、シュークリーム製造や飲食店のFC経営をしている竹屋に出会い、入社しました。配属されたのは、ケンタッキーフライドチキン。最初の3日間で会社の仕組みを学んだあと、店舗での仕事を開始しました。私にとっては、1年目が研修期間だと思っています。最初の年に学んだことは、店の回し方、接客、チキンの調理、お金の管理など。まずは、ひと



最初に苦労したことは?

「素早くていねいに仕事をするということです。忙しいとき、いかに素早く商品をバック詰めできるか。同時に、笑顔忘れずに接客をすること、自然な会話のなかでおすすり商品を説明することも大切です。接客マニュアルだけでなく、先輩の仕事を見て実践に移していきました。書道部時代の「見て盗む」という習慣がいかにされたと思います」

現在の仕事内容を教えてください。

「接客・販売が主な仕事です。調理をしつつ、在庫管理をして足りなければ発注。レジが混みあっていたら手伝い、チキンが少なくなってきたら調理に回ります。土日はアルバイトが増えるので、指示を出してお店を管理する業務が多くなります」

やりがい

「上司から提案活動をしてほしいと言われ、自分でやれることはないかと考えたとき、未使用の黒板が店にあったのに気づいて試しに新商品の案内を書いてみたんです。お客

様がそのボードを見て「これください」と頼んでもらえたときは、取り組んだかいがあつたと、やりがいを感じました」

なるためには

「とにかく学業を頑張ってください。やりたいたいことが見つかったときに、学業をおろそかにして困るのは自分です。あとは、たくさん遊ぶこと。働きはじめる長期の休みはとりにくいので、思い出づくりをたくさんしておくとういことです。後々苦しくなったとき、またあの楽しさを目標にして頑張ろうと思えます」

ありがとうございます。

なか もり あい
中森 藍さん

平成5年生まれ 皇學館大学文学部卒業

出身高校 鈴鹿高校

- 16歳 長年続けてきた陸上をケガで辞め、自分を変えようと新しいことに挑戦。
- 22歳 株式会社竹屋に就職。飲食店経験ゼロからの社会人生活、一から仕事を学ぶ。
- 23歳 自分に自信がない性格だからこそ、日々の勉強を心がけ、自分発信を続ける毎日。



AMBITIOUS #087
浪曲師



「舞台について
—舞台は、まったく怖くありませんでした。下手でも上手でも、「いまの自分には、これしかできない」という開き直りがあったんだと思います。初舞台が終わったあとは、これから浪曲師として歩いていくんだなあと感慨深いものがありましたね。舞台上がるのが怖いと思っようになったのは、3回目ぐらいから。上達して経験を積むにつれ、気づくことも多くなってきました。『ああ、やっぱり怖いな...』と思うようになりまして」

「活動をするうえで大切なのは、自分で動くこと。人任せにしない、人を信用しすぎない、自分で動く、最後に信じられるのは自分だけです。」

「常には壁を感じています。1日1回活動をするなかで壁に当たったりはしませんでしたが...」

「一緒に舞台上に立たれる曲師さんになるんですよ...」(笑)。昔の人のテープを聴いていると、みんなうま過ぎて、天狗になりたくても絶対にならないですね...」

「いままで舞台上で女性を演じるときは、声も気持ちも女性になりました。でもやっぱりそれは、私が男性だから限界があるんですよ...。いま僕がめざしているのは、自分の声のまま表現の幅を広げて女性を演じて物語を語るというものです」

「たえば、まったく仕事がない日ってあるじゃないですか。そういう日に、浪曲のテープをひたすら朝から晩まで聴くんですよ。そうすると、『私は、こんなに毎日好きなことだけをやって生活をしているのか...』と、本当にうれしい気持ちになりますね」



「やりがい」

真山 隼人 さん
平成7年生まれ

出身高校 白子高校

15歳 中学卒業と同時に、2代目真山一郎師匠のもとに入門。

16歳 初舞台を経験する。浪曲師としての第一歩を踏み出す。

22歳 毎日、浪曲に関わることにやりがいを感じる。どんな場面でも、「浪曲師としての誇り」をもって活動中!



「高校生にメッセージ」
浪曲師になるためには、まず弟子入りをすることですね。その後は、それぞれの師匠の意向で初舞台を迎えます。活動をするうえで大切なのは、自分で動くこと。人任せにしない、人を信用しすぎない、自分で動く、最後に信じられるのは自分だけです。あと学生生活においてひとつだけ言えることは、学校の勉強以外の部分から、いかに他分野の知識や経験を身につけてくるか。それが学生生活のうちの最高の勉強だと思えます」



YOUTH
ユースフラッシュ
FLASH

三重出身の有名人インタビュー

白子高校出身の浪曲師、真山隼人さんを独占取材!
小学生のときに聞いていたラジオで浪曲に出会い、中学卒業と同時に2代目真山一郎師匠のもとへ入門。そして誕生したのが、初の平成生まれの浪曲師、真山隼人さんだ。子供のころから一途に浪曲師の道を歩んできた真山さんに、自分の道の切り拓き方、浪曲への思いを聞いてきました。

第6弾

「浪曲との出会い」
浪曲との出会いは、小学生のときですね。たまたまラジオを聴いていたら流れてきて、『こいつはおもしろいな』って思ったのが興味をもったきっかけです」

「小学生が浪曲を聴いて、おもしろいと思うのも珍しいと思いますが...」

「小学生のときから自主的に歌舞伎を見に行ったりしていたので、昔から伝統芸能が好きだったのかも。それと、浪曲は、三味線の音のバランスがおもしろく、またカッコいいなあという印象でした」

「浪曲について、簡単に説明していただけますか?」

「簡単に説明すると、和製の一人ミュージカルのようなものではないでしょうか。基本的には、三味線を演奏する曲師と、独特の節と語り、物語を進める浪曲師がおこなう語り芸です」

「下積み時代」
初めは、おもしろいなあって聴いているだけだったんですけど、徐々に自分でも浪曲をやってみたくて、思うようになつていきました。そうなるので、まずは師匠に弟子入りするところから。弟子入りしたいと思っただ師匠に手紙を送り、中学校卒業と同時に2代目真山一郎師匠のもとに入門しました。その師匠は、三味線ではなく、オーケストラの演奏で浪曲をやっている。これは自分もやってみたい!と思ったのが師匠を選んだ理由です」

「弟子入り後の活動について教えてください」

「楽屋で師匠が座ったときに、鏡や化粧品を用意したり、着物を広げて着ていく順番に置いたり。最初は師匠の身の回りの世話からですね」

「浪曲の技術については、どのように覚えていったのですか?」

「基本的なことは師匠に教えてもらったのですが、技術的なことはやっぱり見たり昔のテープを聴いたりして覚えるしかないですね。それで実際にお稽古のときに師匠の前でやってみて、指導してもらった。その繰り返しです」

「最初に苦労したことは?」

「最初のころは、『こぶし』がうまく回らなくて悩んでいました。授業中以外は、休み時間を使って学校でも練習の毎日です。民謡の先生やほかの人に聞いたりもしたのですが、みなさん感覚でやっているのだから説明が難しく...。結局、ひたすら練習することで徐々にコツのようなものがわかってきました。何でもそうだと思いますが、無理だと思っても繰り返してやっていると、意外となんとかなると思いますよ」

「修行を終えるまでの期間は?」

「修行を終えることを業界では『年季が明ける』と言いますが、平均的には3年間師匠のもとで修行して年季が明ける制度だと思います。私が修行していたところは年季の制度がなかったんで、浪曲師として活動しながら師匠の身の回りのこともやるとい感じでした」

AMBITIOUS #088

photo studio ハナレ
フォトグラファー

大好きなことも
嬉しいことも
受けとめて。

勤務先情報/ photo studio ハナレ

- 住所 桑名市京町42
- URL <http://studio-hanare.com/>
- 勤務時間 撮影スケジュールによる
- 休日 撮影スケジュールによる

アンビ
ジャス的

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→フォトスタジオに就職→アシスタントを経験後、フォトグラファーとして活動



フォトグラファー

学生時代

「カメラに興味をもちはじめたのは高校生ぐらいのとき。私たちの世代って、カメラ付きの携帯電話が出だしたころで、ガラケーで毎日のように写真を撮っていました。もともと父がカメラ好きで、身近にカメラがあったのもありますね」

大学時代について教えてください。

「東京基督教大学に進学しました。大学時代もカメラはずっと趣味でやっていました。大学祭の作品展に出したり、友達との結婚式の撮影をさせてもらったり、地元を離れたことで、親を大事にしようとか、やっぱり地元が好きだなって思うようになってきました」

仕事について

「卒業して地元に戻り、教会の事務やアウトドアショップなどの仕事を経験。アウトドアショップでは、2年くらい商品の物撮りを任せてもらいました。その後、お客さまの紹介もあり、いまはphoto studio ハナレでフォトグラファーとして働いています」

フォトグラファーとして働きはじめて最初に教わることは？

「顔に影が入らないようにとか、どうしたら柔らかい感じで写真が撮れるかとか、どんだん撮影をして覚えるという感じです。やっぱり、見て撮って学ぶことが多いですね。ハナレは子供や家族写真の撮影が中心なので、まず最初に、子供の笑顔の引き出し方や誘導の仕方などを教えてもらいました」



仕事内容を簡単に教えてください。

「どんなにキラキラして見える家族でも、まったく問題がない家族ってないですよ。でもスタジオで撮影した写真を10年後とかに見たとき、『いろいろあるけど、やっぱり家族っていいな』って思ってもらえる気がするんです。そんな風に思えるきっかけを作る仕事だと思っています。ほかにも、ブライダルや雑誌、HP用の撮影などもおこなっています」

撮影の流れを教えてください。

「まず、どういう写真を撮りたいのかを聞いて、小道具を用意したり飾り付けをしたりして撮影をおこないます。その後、写真のセレクトと編集をして、お客さまのもとにお届けするという流れです」

やりがい

「日々、この仕事を選んでよかったと思っています。なかでも、その子らしさが出た写真が撮れた瞬間、編集しているときも、『ああ』って声が出ちゃいますね笑。写真を見てもらうときも、『かわいい』って自分の子をめっちゃ褒めるんです。そういう声を聞くのが一番うれしいです」

なるためには

「写真が学べる学校へ行った方が、自信がつくとは思いますが。大切なのは、たくさん写真を撮ること、たくさんいい写真を見ること。技術だけでなく、いろいろな経験をすることも、いい写真を撮るには大事ですよ。学生時代、自分が苦しいときとかに悩みを相談できる友達や先輩、先生を見つけてください。つらいときにも話を聞いてもらえる人が一人になると思いますよ」

お忙しいところ、ありがとうございます。

辻まき子さん

平成元年生まれ 東京基督教大学神学部卒業

出身高校 四日市商業高校

- 18歳 カメラに興味をもち始める。高校卒業後、東京基督教大学に進学。
- 24歳 大学卒業後、さまざまな職業を経験。縁があってフォトグラファーの道へ。
- 28歳 「家族っていいな」と思うような写真を撮る心がかかる。アシスタントを経て、フォトグラファーとして活動を始める。



AMBITIOUS #089

有限会社マルシゲ清水製茶

かぶせ茶農家



アンビ
ジャスト

かぶせ茶を もっともっと 楽しもう♪

勤務先情報/ 有限会社マルシゲ清水製茶

- 住所 四日市市水沢町998
- URL <http://www.marushige-cha.jp/>
- 勤務時間 9:00~17:30 (新茶時期8:00~24:00合間に休憩)
- 休日 日曜日

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→農業大学に進学→日本茶小売店に就職して経験を積み、農家に就職

—学生時代

「高校時代は、バスを乗り継いで2時間かかるほど通学が大変で、ほかに打ち込む余裕はありませんでした。でも、友達もいない場所に通ったことで勇気がついたと思います。東京農業大学に進学したのですが、高校時代の経験があったからこそ都会に出る選択肢が生まれました。地元の学校を卒業して地元で働くという将来を想像したとき、一生ここから離れられないのかと、思うと、それも嫌で…(笑)」

大学時代について教えてください。

「大学では、農産物の流通などを学びました。そして、地元を出て初めて三重茶の知名度の低さを痛感しました。『地元の水沢町では、どのお茶農家も頑張っているのに…』と悔しさを感じたことを覚えています」

—仕事について

「25才で結婚と同時にUターンして就農しました。当時、お茶の市場価格が下落していたことと子供ができたから茶畑に行けなくなることから、話しあって経営方針の転換を決めました。それまでは、収穫した新芽を共同の工場加工して市場に卸しながら少し小売りをしていたのですが、2年前に小さいながらも自社工場をもちました。自社工場をもつことにより、単一品種・単一茶園の個性を出したお茶の製造が可能になりました。今後もお客様にもっとお茶を楽しんでいただけるよう、小売販売を伸ばしていきたいと思っています」



現在の仕事内容を教えてください。

「かぶせ茶とは、新芽が開くころ茶畑に黒い覆いをかぶせて、光合成をさせないことで渋みを抑え、うまみを引き出したお茶のことをいいます。一般的な農法と異なり、労働時間も経費もかかみませんが、その分、おいしいお茶ができます。マルシゲ清水製茶では分業制をとっていて、男性陣が畑、女性陣が茶葉の販売とかぶせ茶カフェを担当しています。カフェでは、日本茶が生活のなかで身近なものとして感じてもらえるよう、気軽に茶を淹れる方法の紹介もしています」

—やりがい

「世の中のお茶の7~8割の品種が『やぶきた』といわれていますが、マルシゲ清水製茶では、それ以外の品種を育てはじめました。苗から育てて収穫できるまで、平均して5年ほどかかります。現在商品化に至ったのが、『さえみどり』『つゆひかり』『さえあかり』の3種類。次年度うまく育てば数種類増える予定で、こうした希少なお茶づくりは、ほかがやっていないからこそ、やりがいがあります。あとは、カフェに来たお客様から、『やっぱり、かぶせ茶じゃないとあかんわ！』なんて言ってもらえたときもうれしいですね」

—なるためには

「茶畑がないところからいきなりお茶農家になるのは難しいので、まず農園に行ってみることをおすすめします。お茶農家は全国的に後継者不足ですので歓迎されると思いますよ。いま農業はいろんな面で補助してくれる制度があるので、市の窓口に行ってみてほしいと思います」

お忙しいところ、ありがとうございます。

しみず かな 清水 加奈さん

昭和54年生まれ 東京農業大学農学部卒業

出身高校 四日市メリノール学院高校

- 18歳 東京農業大学に進学。全国から集まった農家志望の仲間から刺激を受ける。
- 31歳 住居を改装し、さまざまな品種のかぶせ茶が楽しめるカフェをオープン。
- 38歳 日本茶の作法にとらわれない自由な飲み方を提案しながら、希少な品種のお茶づくりを続ける。



AMBITIOUS #090
株式会社佐野テック
溶接工(橋梁製品)



アンビ
ジャス的

若い日々に技術を 向上させよう!

勤務先情報/ 株式会社佐野テック

- 住所 三重県菟野町大字千草6051-9
- URL <http://www.sano-tec.jp/>
- 勤務時間 8:15~17:30
- 休日 土曜日、日曜日、祝日

なるためには

- 必要資格 / フォークリフト免許、床上操作式クレーン運転免許、溶接技能者 ※入社後に取得可能
- 主な進路 / 高校卒業→橋梁製品などを製造する企業に入社→さまざまな部署を経験→溶接部署に配属

溶接工

学生時代

「3年間ずっと野球をやっていた。部活を通して、ほうれんそう(報告・連絡・相談)の大切さ、上下関係やチームワークを学ぶことができたのは大きいですね。進学することは考えていなかったのですが、夏休みに何社か職場見学に行きました。そのなかでも、平均年齢が若く会社の雰囲気や人間関係がよさそうだったので、いま働いている佐野テック。卒業後、橋梁に関連する部品の製作をおこなう佐野テックに就職しました」

仕事について

「入社後、3ヶ月間の研修がありました。工場内の部署をすべて回り、部品や工具などの名称を覚えるところからはじまり、製品の測定や溶接・穴あけ作業など、さまざまな仕事を体験しました」

入社当初について教えてください。

「学生のころと違い、社会人としての大きな責任も出てきますし、『メリハリをつけないといけないな』と思いました。『ものづくり』の仕事をするうえで大切だと感じたのは、明確な目的意識をもつこと。自分が作業している部品がどう使われるものなのかをしっかりと意識し、仕事に取り組むように心がけています。研修後は、穴あけや切断をおこなう加工部署に配属されました」

現在の仕事内容を教えてください。

「現在は溶接部署で働いています。作っているのは、橋の継ぎ目に使われるもの。溶接する鉄板の長さ



は、15メートルや5メートルのものなど、さまざま。加工の部署から部材が回ってくるので、図面をチェックし、完成品をイメージしながら溶接していきます。溶接したあとは、塗装をして仕上げ。その後、組み立ての部署に回し、検査、梱包をして製品を出荷します」

心がけていることは??

「他部署との連携が大事になってきます。加工されたものが溶接に回ってきて、それを私が溶接・塗装して組み立ての部署に流します。『この日までに加工してほしい』とか『この日までに溶接を終わらせてほしい』とか、各部署と話し合いをしながら仕事を進めるように心がけています。研修で各部署を回ったことが、連携のとれた仕事をするうえで役に立っていると思います」

やりがい

「写してもらった仕事をミスなく仕上げられたときに達成感を感じます。あとは、短い時間できれいに仕上げることができたときなど、自分の成長を感じたときにやりがいを感じます」

なるためには

「必要となってくる資格としては、フォークリフト免許、床上操作式クレーン運転免許、溶接技能者などがあります。私は仕事を始めてから順番に取得しました。資格をもっていなくても、『ものづくり』に興味がある人、機材や工具が好きなら大丈夫だと思いますよ。高校生のみなさんは、まず自分の特技を見つけることが大切だと思います。そして、その特技を将来いかせるように技術を高めていってください」

「忙しいところ、ありがとうございます」

吉水 幸也 さん

平成4年生まれ

出身高校 孤野高校

18歳 野筋に励んだ高校時代。卒業後、職場見学で出会った佐野テックに就職。

19歳 「ものづくり」の仕事に携わる心構えを学ぶ。加工や溶接を経験。

25歳 各部署と連携をとり、質の高い橋梁製品の製造に精を出す。



AMBITIOUS #091
株式会社第三銀行
テラー(窓口)

失敗から学ぼう!!

勤務先情報/ 株式会社第三銀行

- 住所 三重県松阪市京町510
- URL <http://www.daisanbank.co.jp/>
- 営業時間 8:40~17:40
- 定休日 土曜日、日曜日、祝日

アンビ
ジャス的

なるためには

- 必要資格 / 証券外務員、保険募集人 ※入行後に取得
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→銀行に入行→後方事務を経験→窓口として勤務

学生時代

「高校では、陸上部のマネージャーをやっていました。先輩が卒業したあとは私一人しかマネージャーがいなかったので大変でしたが、どうしたら活動しやすくなるかを自分なりに考えながら取り組めたと思います。自分が前に出るよりも、サポートする側の方が向いていることにも気づくことができました」

大学時代について教えてください。

「名古屋学院大学の経済学部政策学科(現…総合政策学科)に進学しました。地域の発展に関する講義を受講し、地域がどうすれば盛り上がるかをみんなで考えたり、まちづくりについて勉強したことが印象に残っています。就職活動では、地元の金融機関を中心に受けました。父が銀行で働いていたこともあり、金融の仕事が昔から身近にあったことが、この仕事をめざすきっかけです。大学の就職センターでは、履歴書の添削をしてもらったり、就活の相談に乗ってもらったり、いろいろと支えてもらいました」

仕事について

「第三銀行では、金融商品の取り引きをおこなうのに必要な証券外務員資格を入行前に取得しておかなければいけません。私も内定が決まったあと、必死に勉強して資格を取得しました。入行後の研修は、約1ヶ月間。最初に入金や出金などの機械の使い方、社会人としてのマナーやコンプライアンスについて勉強しました」

研修後に任された仕事について教えてください。

「最初は、先輩に教わりながら、入金や出金、住所変更などの各種手続きや振り込みの手続きなどをおこなう、後方事務を任せられました」

現在の仕事内容を教えてください。

「現在は窓口係で働いています。お客様が気持ちよく帰っていただけるような接客を心がけています。お客様は、通帳を作るために来る方もいれば、入金出金や住所変更の手続きのために来る方などさまざま。幅広い年代の方が来るので、わかりやすい言葉で説明するように気をつけています。お客様のニーズを聞き出し、要望に合った資産運用の提案やアドバイスをするのも大切な仕事のひとつです」

やりがい

「お客様に私の名前を覚えてもらえるとうれしいですね。あとは、当行を選んでくれたこともそうですし、私が提案した金融商品に対して『野田さんだから買います』と言ってもらえたとき、お客様からの声がいかがいにつながります」

なるためには

「仕事をすすめるうえで必要になってくるのは、証券外務員と保険募集人資格。証券外務員は入行前に取得し、保険募集人資格は入行後働きながら取得しました。この業界は、システムや法律が時代とともに変わっていくので、常に勉強する姿勢も大切になってきます。銀行には、いろんな年代のお客様がいらっしゃるので、学生時代に幅広い年代の方と話す機会を作るとよいですね。私は大学で経験したアルバイトから言葉づかいなどを学びましたよ」

テラー

野田 麻未さん

平成2年生まれ 名古屋学院大学経済学部卒業

出身高校 神戸高校

- 18歳 陸上部のマネージャーとして選手を陰からサポート。名古屋学院大学に進学。
- 22歳 大学で「まちづくり」について学ぶ。卒業後は、第三銀行に入行。
- 26歳 お客様に気持ちよく帰ってもらえるよう、笑顔で窓口立つ日々。

